



TOEFL Junior®
COMPREHENSIVE

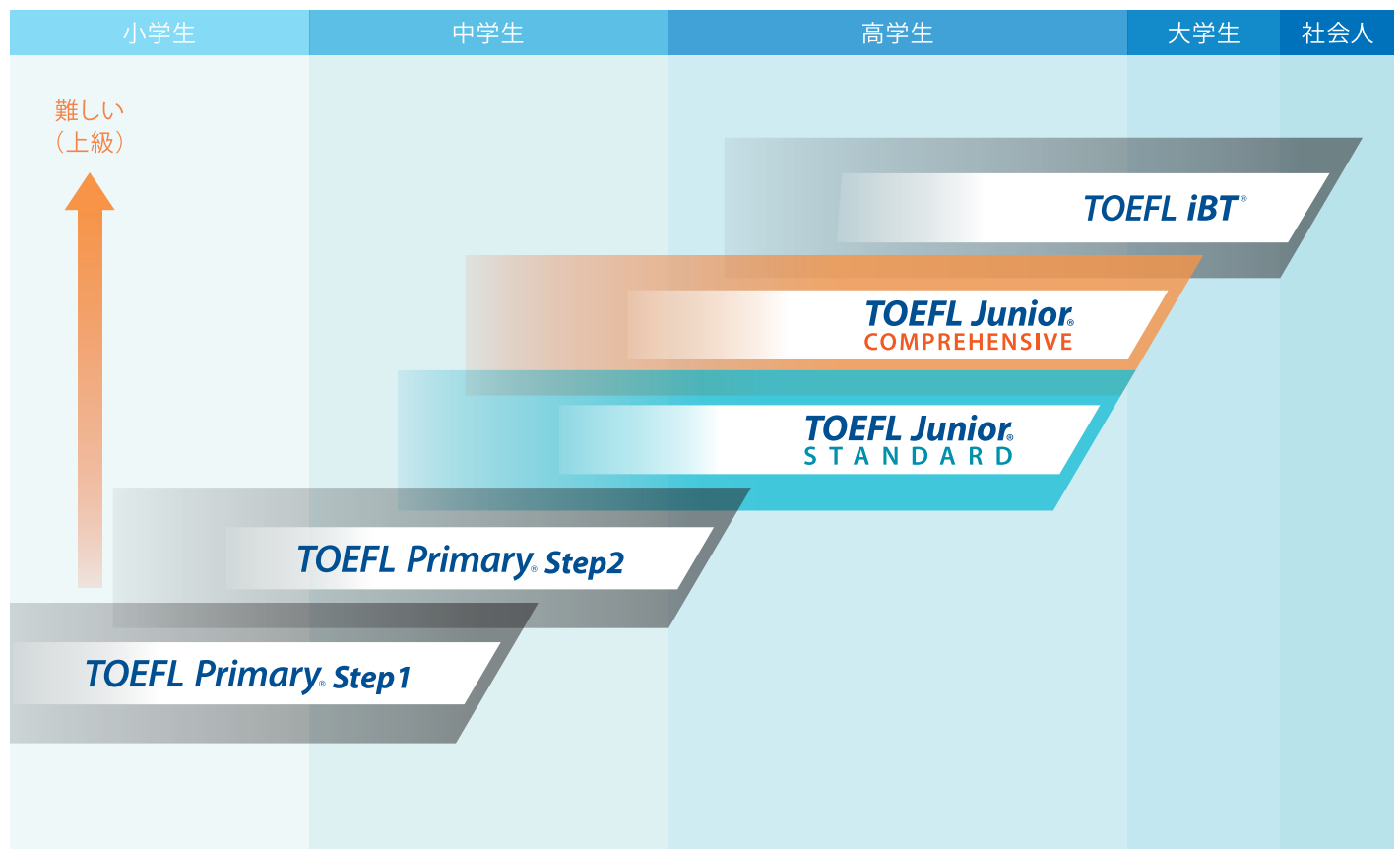
TOEFL Junior® COMPREHENSIVE

TOEFL iBT®に直結する
世界共通4技能型コンピュータベーステスト

Discover Potential. Expand Global Opportunity.

世界基準の4技能型英語運用能力テスト TOEFL Junior® Comprehensive

TOEFL Junior® Comprehensiveは、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能における英語運用能力を、世界基準で測定する高校生向けコンピュータベースのテストです。TOEFL iBT®に直結する唯一のテストであり、文部科学省での「大学入試改革の外部テスト活用」の審議会でも取り上げられており、早くも大学入試の中でスコアが活用され始めています。



TOEFL Junior® の設計思想

TOEFL Junior® Comprehensive の開発元である世界最大のテスト開発機構、米国 Educational Testing Service においては、テストに求められる重要な要素として「妥当性」「信頼性」「公平性」の3つを定め、テスト開発の体制やプロセスを整備し、高品質なテストの設計・開発に取り組んでいます。

妥当性

測定したい能力が、
意図通り正確に
測れているか？

信頼性

常に同じ基準に
基づいた評価結果に
なっているか？

公平性

すべての人が平等に
測りたい能力を
測定できているか？

推薦の
言葉

これこそ、私たちが待ち望んでいた英語テスト

「TOEFL Junior[®] Comprehensiveこそ、私たちが長い間待っていたテスト！」それが、私がこのテストに出会ったときの感想でした。これまで何年もTOEFL[®] 指導を行ってきましたが、TOEFLテストのレベルの高さに圧倒されて挫折してしまう高校生に接し残念に思ってきました。TOEFLテストは英語圏の大学、大学院を目指す人には必須ですが、現在の日本の高校生が触れている英語とのギャップが大きく、橋渡しとなるテストが必要だと痛感していたからです。

TOEFL Junior[®] Comprehensiveは全世界で実施されている4技能型のテストで、結果は語学コミュニケーション力の国際標準規格であるCEFRの尺度でも表されます。まさに自分の英語力が世界基準でどのレベルにあるかがわかるのです。またTOEFL iBT[®]の最大の特徴である統合問題も取り入れられており、英語力を総合的に評価することができます。

現在、TOEFL Junior[®] Comprehensiveは、文科省における「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」でも取り上げられ、大学入学試験の1つの選択肢としても注目されています。このテストを通して、多くの高校生に世界基準で自分の英語力の位置を知り、また後々のTOEFL[®] 受験につなげてもらいたいと思います。



神田外語大学外国語学部
英米語学科語学専任講師

上原 雅子 先生

多文化環境に適した英語力を測定！

TOEFL Junior[®] Comprehensiveは、大学に入る直前に高校で何をどれだけ学んできたのかを見る上で、非常に良いテストです。扱っている内容、語彙力や文法のレベル、リスニングの長さなどが日本の高校生に適していて、中級から上級レベルの4技能の力を測定するには、とても優れたテストといえます。

本学では世界80の国と地域から集まった多様な背景を持つ学生が学んでいます。そのような環境で、一人の教員の話や黙って聞くという講義を受けているだけではもったいない。世界中から集まった学生と、知や経験を共有することで、摩擦をおこさせたい。そしてその摩擦から学ばせることが大切なのでは、と考えています。

そのような大学生活を送るために、英語で「読む」「聞く」「話す」「書く」というそれぞれの基本的な力がどれぐらいついているか。そして、各技能を組み合わせた統合的な言語能力を大学入試の際に見られたら、と考えました。従来型の大学入試問題のように、テクニックで解けるものではなく、学生の基礎学力を見ることができ、しかも統合的な力も測れるものは何かを検討した上で、本学の入試においてTOEFL Junior[®] Comprehensiveの導入に踏み切ったのです。



立命館アジア太平洋大学入学部長
アジア太平洋学部教授

近藤 祐一 先生

独立型・統合型の両方の課題を通じて 4技能を多面的に測定

TOEFL Junior® Comprehensiveは学校で行われる先生や生徒との日常的な会話やアナウンス、授業や論文などのアカデミックな素材を題材に「読む」「聞く」「話す」「書く」の各技能およびこれらの技能の統合型技能を多面的に測定します。日本の高校生～大学生の英語力のレベルと言われる、CEFR(*)のA2～B2の、幅広い層に対応する難易度になっています。

*CEFR: 語学のコミュニケーション能力のレベルを示す枠組みとして、欧米で幅広く導入されています。



全セクションで
コンピュータを使用



リスニングと
リーディングは
選択式問題



ライティングは
キーボードを用いた
タイピングで実施



スピーキングは
ヘッドセットとマイクを
用いて解答

- ・スピーキング/ライティング問題のテストデータは米国ETSに送られ、所定のトレーニングを修了した複数のレイター（公認査定員）がTOEFL Junior® Comprehensive専用の評価基準（Rubric）を用いて採点。
- ・スピーキングテストは面接形式ではないため、評価基準にブレがなく、公正な評価が可能。

テスト 構成

セクション	問題数	解答時間	スコア
リーディング	36問	41分	140～160
リスニング	36問	36分	140～160
スピーキング	4問	18分	0～16
ライティング	4問	39分	0～16
トータル	80問	134分	280～352

サンプル問題を体験していただけます。

TOEFL Junior® Comprehensive Sample Questions
<http://gc-t.jp/toefljunior/comprehensive/sample/>

テスト 内容

リーディング

自然科学・社会科学の教科書やE-mail、記事など幅広い文章に触れます。日常的な文章やアカデミックな文章の内容把握、推察、文章中の文法認識を問います。

POINT

単に英文を理解するだけでなく、文章の構成を考えたり、「判断力」が求められる課題も。

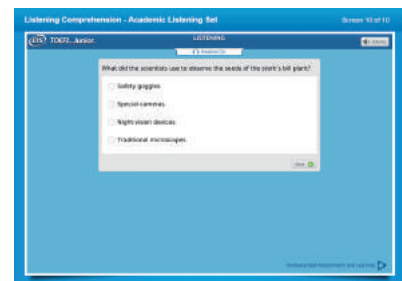


リスニング

学校の授業や同年代の友達との会話、レクチャーなど、英語の環境下での中学校・生活で耳にする題材です。聞き取りではなく、次の場面を想像したり、主題を見つけたりする問題もあります。

POINT

TOEFLの特長でもある「思考力を駆使して解答する設問」も。アカデミックな内容のリスニングに、身近なレベルから慣れられます。



スピーキング

音読から始まり、絵を見てナレーションをする問題、自分の意見をまとめて話す問題のほか、聞いて話す (Listen-Speak) 問題もあります。

POINT

「Listen-Speak」などの統合型の問題は多面的・総合的に英語での「発信力」を測定。



ライティング

文章の修正やE-mailの返信、自分の意見を決められた文字数でまとめる問題など、学校生活で必要とされるライティング力が試されます。

POINT

統合型の「Listen-Write」の問題では、パラグラフを構成する力を測定。TOEFL iBT[®]で、エッセーを書く課題の前段階として設計されています。



結果通知

テストの結果は合否ではなく、4技能それぞれのスコアで表されます。

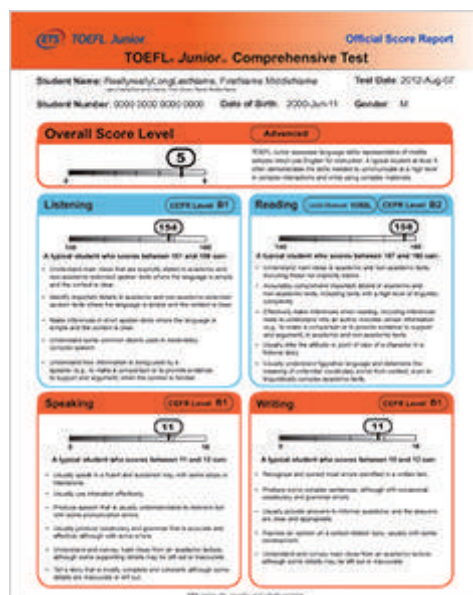
米国ETSが発行するオフィシャルスコアレポートと、GC&Tが発行する日本語のパフォーマンスレポートの2種類が発行されます。

英語

オフィシャルスコアレポート

テストの開発元であるETSが発行するスコアレポートで、受験者の英語力を公的に証明する資料として利用できます。合計スコア、セクション別スコアのほかに、セクションごとのCEFRレベルや、Descriptor (Can-Do Statements)、Lexile®(*) 指数も示されます。

* Lexile® (レクサイル) : 「読書能力」と本の難易度を表す指数で、世界165の国と地域で活用されています。



日本語

パフォーマンスレポート

日本国内におけるテスト運営団体であるGC&Tが発行するスコアレポートです。日本の学生にわかりやすく記述されており、自分の英語力をレーダーチャートで具体的に把握できます。

Can-Do Statements

テスト結果をCEFRレベルで表示するとともに、Can-Do (できること) リストを示し、受験者ができることを表します。海外での生活や留学など、英語を使う場で実際に自分のできることをイメージし、さらなる学習意欲向上へとつなげます。



受験案内

個人受験（公開テスト）

GC&Tが設定する試験日・会場で受験する形態です。個人単位で受験の申込みをしていただきます。

試験日	年間3回程度設定
会場	各都道府県の試験会場
受験料	9,500円（税込）

学校・団体受験

学校・団体単位で、実施する形態です。

実施日時	ETSが定める毎月8日間のテストウインドウ内において実施。
会場	申込団体が設置する会場を使用。 （事前にパソコンの動作環境の確認をしていただきます。）
受験料	団体割引料金にてご提供。

国内活用事例

岐阜県教育委員会 × 岐阜県立関高等学校



2014年秋、全国初となる教育委員会主催のTOEFL Junior® Comprehensiveテスト会が、岐阜県指定SGH県立関高等学校（現SGHアソシエイト指定校〔2015年現在〕）にて実施されました。

このテスト会は校内のコンピュータールームにおいて実施され、2年生の39名が受験しました。

受験した生徒からは「生活や仕事などで使う英語力が問われた」「もっと表現の仕方を身に付けたい」といった感想が聞かれました。

※このほか、アカデミックな英語テストである点を評価いただいた学校様、SGH校、SSH校、IBバカロレア校でも導入いただいています。

2016年から一般入試に4技能テストを導入する立教大学の視点



現在の学習指導要領には、4技能を総合的に高めるための活動中心の指導の在り方が示されています。また、2013年12月には下村文科大臣が「活動の高度化（ディベートやネゴシエーションなど）」に向けた英語教育改革実施計画を示しました。

4技能を総合的に学ぶ授業を受けた子どもたちが、リーディング偏重の大学入試を受けている現状は高大接続の観点からも改善すべきです。スピーキング、ライティングなども含めたアウトプット力を測定できる入学者選抜システムを確立することは急務と考えています。

立教大学 経営学部国際経営学科教授、グローバル教育センター長 松本茂先生

TOEFL Junior® Comprehensiveについての詳しい内容はWebサイトをご覧ください。

トフルジュニア

検索

<http://gc-t.jp/toefljunior/comprehensive/>

お問い合わせ

[Mail] info@gc-t.jp [TEL] 03-6836-0125 (平日 9:30~17:30)

Webサイト



グローバル・コミュニケーション&テストング 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18 京急第1ビル13F

